

松屋筆記

卷廿九

45
1397
13



門 15
號 1397
卷 13

高田早苗
昭和二十一年六月

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, located at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a date or a reference number, located below the signature.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, located in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle of the page.



Large, bold, stylized Chinese characters enclosed in a rectangular border, likely a title or a name.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the page.

Small handwritten text or a mark at the bottom left corner of the page.

目録

一 敬神并の奉例
 二 あひあひ
 三 三日の礼
 四 即祈
 五 老中并年寄
 六 光明真言土沙勸進記抄録
 七 三日月をさしあむ
 八 大進物
 九 くるり詞

杉屋筆地巻廿九目録

- 一 敬神并の奉例
- 二 あひあひ
- 三 三日の礼
- 四 即祈
- 五 老中并年寄
- 六 光明真言土沙勸進記抄録
- 七 三日月をさしあむ
- 八 大進物
- 九 くるり詞

⑩ 陸奥且十郡

⑨ 素三命殿鯛を釣し像

⑧ 天守

⑦ ちりけりし所

⑥ 所の木戸

⑤ 蹴しき

④ 旗雲

③ 命之鳥

② ちりけりしと云ひ

① 代

④ 若露お

③ ひと云ひ

② 饅頭

① ちりけりし皮

是年九月
陸奥国
松屋

おきり
山形
大おきり

千代
宗廟

三才
丁才

信田
とら

松屋
記巻九

高田
此情文偽稿

筒井
并

結城
戦場
物残
石

切
即
お

又
云
矢
倉

公
と
よ
お

又
云
切
席

中
の
あ
り

切
り
と
し

又
云
切

飛騨守 三ノ
おきなり

特奉 倒
田陽 庫 程 本 行
北 五 作 記 五 十 三
室 町 口 記 五 十 三
三 十 年 七 月 三 日

きーの七なりと石弓 筒本の子孫
きうて 尾をくもときき 梅子今依子ド
ラツキといふいここ 地敷伝る具子
トウツ木あり 又お 是なり とも子
の 大 手 女 座 考 くる也
三 日 振 舞 舞
は 多 子 多 子 多 子 上 人 の 内 多 子 多 子 我
お 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子
と 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子
多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子 多 子

梅子多の多なり 兩人一と多舞うる之
の 足 子 や 口 町 の 舞 の 記 今 福 子

三 三日の礼

今の世 羽 舞 廿 日 の 礼 廿 三 日 と い
三日の礼とて 表 家 出 仕 あり 三 日 舞
倉 の 代 の 遠 見 結 城 戦 跡 地 況
二月子 三日の礼 礼も 三 日 舞 氏
二代子 あり 三 日 舞 氏 舞 氏 舞 氏
中 三 日 舞 氏 舞 氏 舞 氏

四 多所

所所に禁苑仙洞の軍家の所館
なす秋所所と云一本所可なり
足名所あり結城秋所物流子京
多りの口はさしき

お世のるるきえしゆのたえはる
公方より秋嘉吉元年一應仁記
二の巻本文

くえちるいやもやしああきさるら
まゆむら所所秋所ありは三の巻
書

新撰何重子抄二秋と云うと
所所の頁はあきら元年
くえちるいやもやしああきさるら

① 老中 并年寄

老中といふ年寄中といふ職し
年老の人といふは老中といふ
今い富名ありしは老中といふ
上巻秋所所中秋所所の中あり
即一門老中思々こ法射トナリト
き同下巻秋所所中節と云の

城子集のなま子御年寄中々光
中々光

光明真言土沙勸信記抄

録

明志上人真言土沙勸信記
土下并別記あり表顯の光明真
言土沙勸信記土下并別記とあり
明志上人智清といふ二字あり
色といふは世の世なり
るに厚紙の西面あり
真言片假名

交りの書は宣命書
その假名をいふ
の母子

光明真言土沙勸信記卷上

○光明真言土沙勸信記卷上

大ヒ密法あり云々

○下ウス云々

○真言土沙勸信記

大ナク真言の一字

○スベテ善根アリ

ヲチテ云々

○ スナハチ シリヌ云々

○ 方藥 ニル シナリ シテ 醫王 テラ ム ダ ク ス

トコロニ 占師ニラ ホセ ツケ テ ウラ ナ シ ム ル ニ

クノクニ チカラ ハ カ ナ フ ハ カ ラ ス 他 国 ニ ト ブ

ラハレ バ シ ル シ ヤ ア ラ シ ト ウ ラ ナ ヒ ケ リ 云 々

○ 国 この中 ニ 云 々

○ ヒ カ リ ウ カ ク シ 徳 ヲ ツ ミ テ ウ チ ア カ セ ヌ

ヤ ウ コ ラ シ ア シ ケ レ 云 々

○ 人 マ ウ シ ガ ニ タ ゲ テ 云 々

○ イ シ ク ホ レ ラ ア ラ ハ シ ク ニ ヒ ケ リ 云 々

○ 青 丘 大 師 ノ 土 沙 ニ ア ラ フ 有 縁 ト ス ト

判 シ タ ア ル コ ト イ シ ク ラ ホ ユ 云 々

○ 有 有の字も

○ イ ハ ム ヤ 云 々 此の錯りもやよみておき

○ ア ナ ガ チ ニ カ ク シ ト ス ル ニ タ ラ ス 云 々

○ コ ノ 山 寺 ノ ウ チ 一 人 ノ 住 僧 先 年 ノ 云 々

ヒ ラ ニ ア リ コ ト ア リ サ シ テ チ 病 中 ノ コ ト

カ タ ル ニ コ ノ ク サ ビ ラ ラ ト リ テ ア タ ヘ 先 下

僧 ソ ノ ハ ト ト モ ニ キ タ リ テ カ タ ラ 云 々

スシテ井丸ヲドリサレハカヘリ子カシトラ
モフニクチハナレスシテ井丸ヲムツカシサ
キハアリナリオホハツルヨシヲカケル

○年 年の字

○如來 功徳の口ソテリ

○フノ井ユメノフトク下おほシノフトシ

○勝軍王五百、群賊ヲトラヘテアガ

スラクシリテハヤシニスツ

○モシハクビニモカケテモニキリモシハカタラ

ニモヲキテ

○タカラヲアツマテコレヲツクノフ

○カヤウノフトニナソラヘテ

○日藏上人の迹は季中ノ人ナリ

イハヤニモリテ死言断食ノアヒメニ絶

入ヌソノアヒメニ金剛藏ヲ成神ヨリ

テ天上地獄等ツナルニ同絶ノウチ

イハヤニモリシトキ特セルトコロノ本尊經

ホラ常ヲ持セリスナリテ跋魔王宮ニイ

タル大玉トヒテイハヤニモリシ

持セルハナニモリシ答テイハヤニモリシ

トキ持スルコトノ佛經也大王トヒテス
ナニ經ナニ佛ソヤヤテス大日親迦
務勒觀音等ノ像又兩部ノ方タスリ
又小字ノ法華涅槃最勝仁王金
剛理趣般若等ノ經文又三部ノ
儀軌次第等ノ大佛頂隨求光
王ノ陀羅尼カクノコトキ佛經ナリ大
王スナチ合掌頂禮シテテラトリテヒ
ミチビキテハニニホリテタアノカニ
セシメテ隨喜讚歎シテ法要ヲトリ

大王タチテ禮拜シテ善哉々々トホフタ
下ヒケリト云

釋の字

剛

禮

重警

○ 臨終ニ正念ニ住シテお沙ノ功德ヲモテ
○ 禮 禮
○ 剛 剛
○ 歎 歎
○ 々々々 々々々
モハタス人ハ下トハニシカレニ臨終ニ狂亂
シテ正念ヲウシテテララム人ハお沙ノ
利益モツノミカクヤスル云々

○乱 亂の字

○稱名礼伴等ノ行ヲハケテ他事
アルヘカラスカナラスシモ南元土抄ト稱
スヘキモアラズミ

○元 元の字

○下サレキ土抄ノ利益ヲモハタリシ功德

○利益カラスアルキナリ

○タ、物ノおシカラムトキコノ真言加持ノ土
抄ヲクムニタケ下ケニ變ニテ飲食ノコ
トクナラハ真益ヲモ信ス

○海 海 水ニシテ物ニアハサレハコレヲスナフコ
クミカケテ前決シカタフテコレヲモチ井ルシホッ
ヤクトイフハスナハチコトナリ

○シホヲシルノアハセニシテ調和シ受用
コトシカモコノシホ海水ト元ニ元別ナリ

○コノ不審ニ妄情ノ下ヘヒガ下ナリ

○水ヲソノキテ物ヲサシメ

○イマコレニナソラエテ所標ヲ推スニ

○タカラニトモシキ人ノツギナクテラソレテ
人ニアタエサルカトシ

- サトハバトリ大座ヲトグヒソノトモトセルアトハ
皆ナ大座ノ一分ヲエケカフトシ云々
- ヲリナキヒシクノ法ノ相ヲイハレ云々
- イサノカコノ信トモナル智恵ノ功能ニツ
ラム カクナナリ云々
- ヒソカニ正教ノ文理ヲ ヲモヒテソラニヤ
ハラケニウセトモナラシワタクシノ安之ニ先
ハカカリニタハス云々
- 三昧耶トイフハヒトシトイフ梵名ナリ云々
- 三々麻耶トイフハ、テウセハツトクシキヤツ

ナレトモフカツ佛徳ヲ愛樂セハスナハチ
 フレラガミノシナルニシニ等ノ義ニツキテ
 アヅアサイエバズメノコニモコノ三々等ノ義
 アリハシメニカイトニシテメナモナシタハハ
 スメカカイトナリシクラ井ニヒトシツキハ
 カイトヨリイデクメハナアリテハハカリタリ
 シクラ井ナリツキニヲトナスメナリテアラ
 アウケケスアタメアハムテハトヒトシク
 ナルナリコノ三々等ニヒツギテスノメトナル
 ナリコシハス、メニ三々麻耶ナリ云々

○^梵梵 梵心

林ヲ以テ沐ト略シテモアリト

○摩 摩心

○人トアハクテノテウテトイフコトワサ

アリトモトニ一人教心人アラハ諸人モ

トタテナフコトモ

○ハケムコト

○コレヲノ文理ヲラモルタルナリ 録ノ法門

モタ、ラケナルトコロヲ一クツ、下ラスアヒタ

性相ニ門ノ我トモモアラクシクオコエヌ

コトモ

○~~ア~~フトナカキ傍論ニイテアラスモ

○カヤウニカナテアウシケル無意趣ハミナ

モト一人ノ請カナトモフテラソナルナラ

ヒハツサナケレトモツカクトヒヒツナナケレトモ

トラクエシケルモタアノスラシハウチカヤク

トイエトモイテタ法燈ノヒカリヲニスルハ

イラリノシタタノシトイエトモ サラニ聖賢ノ

タクハハトモシモ

○アハナルカナヤカナシヤカナヤ

○ラソラクハコノ書ノイララムトコロコトモト

面談。ナソラへて子ムコロこ土沙ノ信仰ヲ
テウシフフ云々

○ニハニナソラシキウモキヲウエテハナサキフクシ
クスフヲアワカコトクニ云々

○青丘大師マツフカリコノ文ヲアチヒタニハ
リ云々

○イタキカナヤヒトリタシナヒトリアヤフニ
テ救護スル人ニ云々

○モレイサダラカムラズナソ脱射ヲ論
セム云々

○ニ交り 再按る

○交 按ノ看字

○光明ニ真言土沙勸信託下

○ナラシ 尚ニ一大利益ヲ成ス云々

○イザト申 其青黄等ノ色口トニシテ

方圓等ノカタチ同シカラヌカタクコトカニシテ
一聚ヲモセリ是ヲイザトナソク云々

○オシイヒラコニカニクタキタハカタクシテコト
カナリ云々

○土沙ハヒカリナク沙金ハヒカリアリ云々

○甲 河金チーリ出ス云々又云々スオホーシカラ云々

○マナノ下を現前ト云々

○カワノノ忘情ノ執著ヲトクサカハ云々

○大自ハテタラカカコトシ大成ハカケル助云々

ニタリ云々

○フチ井ノ拙家ノ入道ノ子息宰相ノ所

閣聖性一愚トテウシノ人アリヤイハ

之者アリソノ人ヲサナクシテカク位セリ

モテノ早カニ大事ニヤミテ絶入スル先師

行慈上人ソノカタハラニサテウリヲ加持シテ

ソノクチヒルニヌラハ獲生ニテカクテイワク

ワレハシニタラハ莫クナルハキ物アリケル

ヤラムヲカミ水中ニアルニクチノウチニアテ

クナデタキ物ヲフクニソノアチワヒヤソ

フテコクイニクオオテイキテタシハ上

人ノウリヲ加持シテクチニフクダラカア

ニキ物トクチヲアワセオカラ水中

ニ居ルニトクチヲ莫クナルハカクヤラムト

イヒキ云々

○愚僧カ多年 持者ノ下僧ニ定龍
トアウスモノアリガリシ負應元年八月
廿八日ト重病ニシツミテ數日ヲオクル即
ヒタ^イ絶セカ^イトクシテハルカナルモテラ^イク
蹟路^イオモクキ^イテモ^イクノ罪人^イ執傳^イヲ
カフムレルヲミル^イノオ^イキナル^イカリモ^イク
人^イカケハカル^イコトヲ^イシ^イ物畏^イクワテ
リヤリ^イシテ^イハ^イ光明^イ真言^イヲ誦ス^イ在^イ面
是^イ邊^イ頭^イ志^イ大^イ童子^イノ^イワ^イリ^イナル^イモ^イ多^イク^イハ^イ尺
分^イリ^イナル^イアリ^イテ^イ定^イ龍^イ法^イ所^イヲ^イ分^イカ^イリ^イ

カケムトス^イテ^イ予^イ箭^イヲ^イ持^イシ^イ先^イ佑^イ解^イノ^イ人^イ
アリ^イテ^イコレ^イヲ^イ制^イ止^イシ^イテ^イカ^イケ^イシ^イナ^イス^イコ^イノ^イチ^イニ^イ
キ^イリ^イエ^イコ^イノ^イ之^イリ^イウ^イテ^イ教^イ育^イス^イ佑^イ解^イノ^イ
人^イシ^イテ^イイ^イグ^イヤ^イク^イ本^イ郷^イハ^イカ^イリ^イタ^イテ
フ^イヘ^イシ^イト^イイ^イフ^イキ^イロ^イコ^イヒ^イヲ^イナ^イシ^イテ^イカ^イラ^イハ^イト
オ^イモ^イヒ^イテ^イカ^イリ^イト^イミ^イク^イレ^イハ^イタ^イク^イニ^イテ^イ暗^イ々^イト
シ^イテ^イサ^イラ^イエ^イコ^イル^イト^イコ^イロ^イナ^イシ^イサ^イラ^イエ^イコ^イラ^イハ^イ
ケ^イシ^イテ^イ光^イ明^イ真^イ言^イヲ^イ誦^イス^イル^イコ^イソ^イノ^イコ
ス^イニ^イテ^イ白^イ青^イ色^イナル^イ光^イ明^イ諸^イ方^イヨ^イリ
定^イ龍^イカ^イテ^イヘ^イテ^イヒ^イア^イワ^イセル^イ氣^イを^イコ^イシ^イテ^イ

誦を光明ニツリアツテリテ周遍
シテ虚空ニミケヌソノチカラムト
スルコトヲ身ノケカラナリシテアユムキ
コトモセズハドクハケミテ真言ヲ誦
スルソノカヨリアカリテ虚空ノチ
氣ススナツチソラヲトヒテカハトオモヒ
テサナスコトハ信年來ノ光明真大
言持者ナリ

○チカラヲイテシニライタセハキ

○此ノ高山寺多チ石水院トテウスト

コトハ諸房ノミツカミナリイハホカクハ
シツテニコカクイサコハスチキヲオツメテ
チヨキエマワセテ忍信多年ノアヒタ
随分ニ顯密ノ法門ニツケテコトコト
ミシテ自利ニ他ノ行ヲツネヒカレハコト
トコロノアラクシキイシラトリテソノアト
リニ用伽井ヲカテエテコレヲスク
シテスルイテ無石ヲサケ細クナリテ
コレヲモチ井ニシ

○毛也ノ釋後トトモニチカラヲアソラヒ
如弟太子ナリトモ

タテイシトキセクカ子ノワシクイト
 ラシテソノヤ地ヲウカチテイリヌソノアト
 ヲリミノ年（誤）ノモウノ病人コレヲ
 ミテモチ井ルヤアヒイユルコトヲウシ
 ○射象ハ多ク其子ニテコレシトキノチカ
 ハサノアトナリ輪石ニシテ滅後ノ意者
 ラアワレシニテコレヲトコトテ（リ）キ
 ○アハレナルアヤカナレキカヤ
 ○罪業ハ下ナコノ下ニツモリヤスノ善
 根（誤）ノソコニツクヘカワシキ

身ノ不奇ヲオモフコトニキ
 ○コトククミノアカキクカコトシキ
 ○年来ハコノ日記ヲオモルコトナリ
 キトキコノソムニ信心キモ銘シキ
 ○信仰 子子トコトキキ
 ○安貞二年五月九日危ノトキ
 高山寺（誤）院ノ草庵ニシテシラ
 記ス
 ○光明真言土沙勸信別記
 ○愚信サキ一人ノ請カヤル土沙

勸道記ヲシテ

○在家ノ人トシテハカリヲモフコトヤ
アルニキ

○深法ヲニヒテソノリカタシヨシニ對シテ
如女擇ニシヨクハ病亦ナシトモヒ
クヲサハコロシカルヘシキ

○現ソノミニタモテラヤ~~信~~在生ヨリ
信セムヲヤキ~~現~~

○井中便所ニカリナクキ

○世間人トシテハモトハキ

手新

○カタスミエヒテコニ生ヌベシキ~~スカタ~~
スミエトメヤリサキノコトクサキテモ
タカタスミエヤリテウツニキ~~スカタ~~
ヤリテウツニキ

○テニリヲモチテワノカシラヲウチテハ
頼流果ヲ與ルナリトイフニキ

○ヲ中ヨソ有ニ居子タシカ者行セサラム
ニ

○アサカチエトシタキ

○花ノスカタヤクシテ月ノカサハセ

ステニクモラムヤキ

○タトヒ千秋百歳トイフモ北列千

年ノ**壽命**ハトラスルヤノコトシ

悲想ハ方ノ**大却**ヒニカヤクイナラ

ナリ

○**現世**ノ下アリトモナルキ**功徳**ヲア

ラハスナリ

○人ニ**アツク**アハキエアラ子ハ云

○イノチモ**ツ**ニリ**ア**レヤ**ア**ルハキ

○カノ世間ニキツ子ヲ**ツ**リテ物ヲイハセ

志トスルコトキユエカレハイサカノ**悉**

地成就**テ**ハアレトモ善根**切徳**ハアラ

ス

○**観音**經ナリヨミテ云

○**アル**ハ**現身**ニ諸天ノ王トナリ

○ツノ**タ**ニホリキ乳ヲモトナムカコトシ

○タラフシモイヌノカタチヲツクリテ**ク**ト

ナツケテソノカタチニワケテ**縮**果

蘇**越**ノ名ヲタテ、云

○**寿**ノ考

○如来満月ノおほせに敬嘆す現シタ

○~~可~~フ云々

○今此記の釘元トキ安貞二年三月

廿六日高山寺祥雲院ノ草庵ニテ

妻雲々タニヒルカハリ松風ニ子ヲ以テ

冬天スラセテテテ若日チカフムカフ

季子舒子ノカタリノ露命ヲ立ヤスレシ

○年

○貞二年攝月廿六日午時

於高山寺祥雲院草庵ニ遊遊之。真
言行人高弁。ニテ了とあり

○七十五日ハをむ

今依之月ハおれまハ幸子ありと

乙女多んをむとあり為忠家あり

有親流る三日月のあり

ワクニしハ地のみまけん坊てさの

山より高の日はおれとさるてさく

さるのあり

○犬追物

ハ幡鳥三童洲上巻ナ狂子神功皇后所
弓ノ短キ大盤石上ニ新羅國大玉日
本國大也書付給所録ク王宮ノ前ニ
立置セ給テ所御朝者ケリ大追物ト
云事ハ異國ノ大ニカキトリ射敵軍表
示也云々細川兩家絶上絶子細川常植
後世の歌子
大追物ヲ至下リト云ク一ノ女キハ
たゞいづばゆらまこえ

丸 ともやう一詞

今世のともやう一とらむともやう一の
こゝの梅杉海上世子公家子ははら
みあり等氏何とよめ詞を好こつる
けるともえ

十 陸奥ノ五十四郡

陸奥ノ五十四郡のともやう用身ヤとるあ
らうとも梅杉海上巻下ナ生元弘三
年平一統の時城島重相禊門唯后
腹の三れつとも常きとも出羽陸奥
兩國の字とも管飲ありとるなり

富之階持
僧鉄受が永祿
丁卯硯端子伊
達探取于東
奥五十四郡一富
貴榮達智名
勇略志也可也
者上
細川たて守子

五十四郎の軍勢を率へては薩の爲に
 不破の関をこえりし事なり
 (十一) 東三郎殿鯛を釣し
 東三郎殿の形を鯛と釣し
 此と云ふは物津長者西河寺地
 指邊なる物なりハ幅員三重洲下巻
 和の西宮ノ大明神沖ニ出テ釣リ
 故ハ世々ガ旨限只片トテモ可死莫ク以
 神通鑿迹サセ玉ヒテ大悲心能ニ懸テ
 救死死海出サセ給也云々因云

西宮の御子ハ二月六日ハ
 籠とて人畜をもせざる事
 西家記上巻ハ
 細川

(十二) 天守

城の天守と云ハ近江の安土城ナリ
 三子橋津目伊丹城の天守も
 (十三) 此の月
 依言ハ此の月と云ハ

七十九
 駿河守
 三子橋津目

細川西家記上稿より好之長上京百万
遍る之腹切なるも同若新田御介錯し
我々只腹切申儀跡守をむらりり月子
の如くもまはれぬ只人間の因果の定まらぬ
ありきまのうらみと人の中しき

④ 町の木戸

町より木戸を立つるともよくせうのこと
是細川西家記上稿より堺大木戸木
戸よりして双方をいへりしとを

⑤ 旗雲

今世遺家遺地は下海軍とす
細川西家記上稿より職とせりしとを
海職のゆかりありし海軍の氣を

⑥ 旗雲

万葉のなまの豊旗雲と云ふ文徳實録
し旗雲と云ふ細川西家記上稿より天
文十一年五月三日より陽雲を惜む
ゆゑにこれ氏側方をとすこととす
雲杉雲竹とす類はるる天宮書
高解三才高解と考す

右御言集二世下
御言集

正安和記六
鎌倉功記
本朝文粹
世宗

命之鳥

細川西家記上將子拾晴元子筑前
守を失りて長閑のやん
命に鳥子と云
くんとやに云

空花論行

空花論行のひるげたるいぬ
えり、ちんとしあし
河ぬのりもえり
本に空河お軍のいぬ
のひるげたるいぬ

大統秋
尻のいぬ
あし
本朝文粹
世宗

海学大版

代を云と云

廿 暑者露

日書柳丁の一月
あつたる紙衣と襦
たて暑者露と
あつたる紙衣と襦
あつたる紙衣と襦

暑者露
あつたる紙衣と襦
あつたる紙衣と襦

岩田言皇二世
尾花信朝

正安社法
録四世功記
本朝文粹

命之鳥

細川西家記上
守を失りて
命之鳥

歌学大成

新撰在教皇土
司の人の

又曰卷下
往來の人
唐の海
はいつの傍

日書
あり今
代を

日書
たて
あき

又得云云坊の七尺の力
少平人可力増より低衣の
一尺の力の折解を
格をよき人一尺の力
りかめし
異しと諸国を
人めきれ
方より
をや
低あり

七十一番職人歌合の歌あり
たり可考後訓集に説あり

（廿）
日書

日書下始
世片あり
わき
おと
聖の字の教
印を用
先

手印
手印

今川森下器
守武有輝
并説兼編六花

世三 饅頭

日書 我子まろくこえるはたき
づいせんぢもくうんびんあき
ちつとちぶーしきよこらも白く肥
るる色秋みろくし七十一番職人歌合
てしよいの歌よ

いもやんきくさるちせうせんぢあうの
あらあもえん人のあひさし番うもこき
今のあきの饅頭ひびいてのまよしたう
まんぢあうーさいせんぢあうーうもくさう

ちてんとをてうさういハ庭河往来子
調茶之仁地十月三とくも撮懐集下巻
監に類部子饅頭まき茶用集末部
食服門子饅頭まき下学身飲食門子
饅頭まき運歩色集身末部子饅
頭まき大内家壁書子美せんぢあう
折巻略片づーしき

世三 うそのえ

空花論 阿た子梅の屋ハ明慧上人
のやの言子け箱ひびくつふんとん枚

の通にうつありと年一曆應元年子
 のあまの地角のみやうりたるの力
 とるもら皮袋をこのあふこの皮は
 りこころかたもかはれ水もあふ
 けうるあふまよしかるちうまくと
 こまのうへ今七子の信諸し新撰大統
 は身部よこまをまこしをまこまか
 とあふし請まこまをまこしをまこまか
 こまとはまこまのまこまこまのまこま
 部よま脚はまこまのまこまこまのまこま

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

in demselben Jahr die Königin Maria
von England die Königin von Frankreich
und die Königin von Spanien
die Königin von Portugal
die Königin von Neapel
die Königin von Sicilien
die Königin von Aragon
die Königin von Castilien
die Königin von Navarra
die Königin von Brabant
die Königin von Burgund
die Königin von Flandern
die Königin von Holland
die Königin von Zeeland
die Königin von Antwerpen
die Königin von Brabant
die Königin von Burgund
die Königin von Flandern
die Königin von Holland
die Königin von Zeeland
die Königin von Antwerpen

